

2010年8月6日

バンテック、2011年3月期 第1四半期決算を発表

株式会社バンテック(本社:川崎市、社長:山田 敏晴)は6日、2011年3月期第1四半期決算を発表いたしました。当第1四半期の実績の概況及び2011年3月期の見通しは、以下のとおりです。

(1)第1四半期実績の概況＝前年同期の赤字から黒字に転換

主要顧客の自動車生産回復および国内外における国際貨物取扱量の増加により、前年同期比で約3割の増収。利益は前年同期の赤字から黒字に転じた。

(2)連結業績予想＝業績予想に修正なし

エコカー補助金の終了による自動車生産への影響などの懸念材料はあるものの、通期では国内自動車生産が堅調に推移すると見られることや国際貨物取扱量の回復基調が続いていることから、業績予想は据え置く。

<第1四半期実績の概況>

当第1四半期は、主要顧客の国内自動車生産台数が前年同期比で約4割増えたことや、国内外における航空輸出货量・輸入件数の増加などの要因から、売上高は312億6,800万円(前年同期比30.5%増)と、大幅な増収となった。

利益面では、増収効果から営業利益が12億円と、前年同期の赤字(△3億6,200万円)から黒字に転換。経常利益も12億4,500万円と、前年同期の赤字(△2億8,900万円)から黒字に転じた。また、四半期純利益も引越・機工事業からの撤退に伴う特別損失を計上したものの5億6,400万円と前年同期の赤字(△1億2,500万円)から黒字化した。

事業の種類別セグメントは、『国内物流』が主要顧客の自動車生産台数および輸出船積台数の増加により、売上高206億4,000万円(同24.6%増)、営業利益が7億500万円と、前年同期の赤字(△5億6,400万円)から黒字に転じた。また、『国際物流』は、日本発着の航空・海上貨物取扱量がいずれも前年実績を上回ったことから売上高57億9,700万円(同42.7%増)と増収となったものの、航空会社の減便などによるスペース仕入れコストの上昇などの影響で、営業利益は2億2,100万円(同6.9%減)と減益。一方、海外子会社の業績を集計した『海外物流』は、中国において自動車部品物流が好調なことや、中国や東南アジアを中心とした航空貨物取扱量の増加により、売上高が48億3,000万円(同45.0%増)と大きく伸び、営業利益は2億7,300万円と前年同期の赤字(△3,500万円)から黒字となった。

(注)当第1四半期から事業の種類別セグメントを変更しています。

・旧セグメント＝「国内物流」、「国際物流」、「その他」・新セグメント＝「国内物流」、「国際物流」、「海外物流」

主な変更点＝旧セグメントの「その他」は新セグメントでは「国内物流」に含まれます。また、旧セグメントで「国際物流」に含まれていた海外子会社の業績を「海外物流」として、独立セグメントにしています(決算短信をご参照)。

<連結業績予想>

9月末のエコカー向け補助金打ち切りによる国内自動車生産への影響や航空会社の減便、路線の見直しなどによる輸送スペース確保のためのコスト上昇などといった懸念材料があるものの、①主要顧客の自動車生産の見通しが堅調であること②国内外における輸出入貨物の回復基調が続いていることから、業績予想は変更しない。

・2011年3月期第1四半期の連結決算概要と業績予想

(単位:百万円 △は損失 カッコ内は増減率%)

連結決算	当四半期 実績 2010年 4-6月 (A)	前年同期 2009年 4-6月 (B)	前年同期比 増減 (A)-(B)	上期(4-9月)予想 (5月12日公表)	通期予想 (5月12日公表)
売上高	31,268	23,955	7,312(30.5)	61,000(17.7)	126,000(10.9)
営業利益	1,200	△362	1,563(-)	2,400(164.3)	6,000(42.0)
経常利益	1,245	△289	1,534(-)	2,400(140.4)	6,000(32.7)
(四半期)純利益	564	△125	689(-)	1,300(71.3)	3,000(20.5)

以上